

かわ

Vol.214
2012.7.1



Contents

- わがまちのかわ ◎第14回大刀洗町 P1~P2
みやこ町立 上高屋小学校の取り組み P3~P4
平成24年度第1回災害復旧実務講習会の報告 P5
河川愛護月間のお知らせ P6
ふくおか水もり自慢! 筑豊大会 P7
キッズ質問コーナー P8
福岡の身近な川とさかなを知ろう P9~P10
No.19 ヤマメの理由
水辺の鳥図鑑/協会からのお知らせ

わがまちのかわ

第14回

た ち あらい まち

大刀洗町

TACHIARAI TOWN



位置と町の概要

「自らが守り育てる豊かで活力あるたちあらい」

大 刀洗町は、福岡県の中南域を占める筑後平野の北東部、筑後川の中流域北岸に位置します。東西8.0km、南北6.5km、総面積22.83km²で、東は朝倉市、南は久留米市、西は小郡市、北は小郡市と筑前町に隣接しています。

町の南部は、日本の三大河川のひとつである筑紫次郎こと「筑後川」が東西に緩やかに流れており、沖積層の肥沃な農地と豊かな恵みがもたらされています。北部は、洪積層の酸性土壌で、植木や芝の産地となっています。

筑後川は阿蘇外輪山にその源を発し、日田市において九重連山より流れる玖珠川と合流し、大刀洗町を流れる佐田川、小石原川、大刀洗川などの多くの支流から水を集め、筑後平野を緩やかに流れ有明海へ注いでいます。

町の川は、東から佐田川・二又川・小石原川・陣屋川・大刀洗川があります。なかでも大刀洗川は大刀洗町という名の由来と

なった川で、南北朝時代の1359年、後醍醐天皇の皇子征西將軍宮懐良親王を奉じる宮方(南朝方)の、現在の熊本^{のみやかねよし}の豪族菊池武光と、武家方(北朝方)の筑前太宰府を本拠とする小式頼尚^{しょうにより}が、現在の小郡市大保付近で激突した大原合戦^{おおはらがっせん}という戦いがあり、そこで勝利した菊池武光が激戦で血に染まった太刀を川で洗ったとされる川です。

その川が後に「大刀洗川」と呼ばれるようになり、現大刀洗の地名となりました。

現在、大刀洗町周辺の市町村とは、大分自動車道や国道322号・500号、主要地方道久留米筑紫野線^{ひさ}の他10路線の県道によって結ばれています。

この恵まれた道路環境と福岡都市圏へのアクセスの良さで、平成23年に飲料水製造工場と食品メーカーの営業所が進出し、町の経済発展や雇用促進に大きな期待が寄せられています。

菊池武光銅像

太刀洗の地名の由来となった菊池武光の勇ましい姿のこの銅像は、武光が太刀を洗った場所とされる「菊池渡し」に昭和12年に建立されました。現在は、大刀洗公園の一角にあり、馬腹や台石には昭和20年3月の太刀洗飛行場爆撃時の名残の弾痕があります。

この地方はもともと「太刀洗」という地名でした。明治22年に町村制施行に伴い合併した際に、現在の大刀洗町の西半にあった村名を「太刀洗」として(手続き上の誤記ではないかと言われています)、官報に「大刀洗」と記載されたことによりそのまま村名が「大刀洗」となりました。昭和30年3月31日、町村合併促進法により、大堰村・本郷村・大刀洗村の三カ村が合併した時もそのまま引き継ぎ現在の大刀洗町が誕生しました。



菊池武光銅像



大刀洗公園の桜

今村カトリック教会堂

大刀洗町では古くからキリスト教が信仰され、その起源は1550年代と推定されています。当時、キリシタン大名大友宗麟の影響もあり、キリスト教がひろまっていた。しかし、島原の乱に懲りた徳川幕府の厳しい禁教により、表向きは仏教という形をとりながら、密かにキリスト教が信仰され続けました。幕末の慶応3年(1867年)今村キリシタンの存在が明るみになり、明治6年(1873年)、信仰の自由が公布されるとヨーロッパのカトリック教会(パリ外国宣教会)から派遣された宣教師の手によってキリスト教が復活し現在に至ります。

二つの塔をもつロマネスク風様式で赤レンガ造りのこの聖堂は、諸外国の寄付と地元の信徒の労働奉仕によって大正2年(1913年)に完成しました。九州各地で多くの教会堂建築を手がけた長崎の鉄川与助氏の設計、施工によるもので、その中でもこの教会はレンガ造りの教会堂の傑作とも評されます。平成18年に県指定文化財になりました。



今村カトリック教会堂(正面)



今村カトリック教会堂(内部)



今村カトリック教会堂(斜全体)

ホタルについて

5月下旬以降出始め6月10日～15日頃の約1ヶ月間、観賞できます。大堰三川地区の佐田川と筑後川合流域のホタル生息地は福岡県の快適な環境スポット30選にも選ばれています。



ホタル

「大刀洗飛行場」～西日本航空発祥の地大刀洗～

かつて大刀洗町・筑前町・朝倉市にまたがって「大刀洗飛行場」がありました。大正8年に完成し偵察を任務とする航空第四中隊がおかれ、大正14年には定員1,500名の日本最大の航空部隊が駐屯していました。

昭和4年から11年には、陸軍立川飛行場(のち羽田空港)を本拠地とする日本航空輸送(株)大刀洗支所が設置され、東京、大阪、大刀洗、釜山、大連を結んで郵便と貨物の輸送や旅客輸送、遊覧飛行が行われ、民間での西日本航空発祥の地となりました。

昭和15年、大刀洗陸軍飛行学校が開校され、特攻基地として有名な鹿児島県の知覧の本校という位置づけがなされていました。

太平洋戦争末期の昭和20年の爆撃によって壊滅し、今は飛行場の面影はあまり残っていません。

戦後、飛行場は福岡市の雁ノ巣沖に移転し、その後福岡市板付に移り、現在の福岡空港になっています。



戦時中の大刀洗飛行場昔

床島堰と大堰神社

昔は、水利に乏しく干ばつに見舞われることがしばしばでした。これを解決するため、1712年に庄屋高山六右衛門は久留米藩の許可を得て、草野又六の協力を受けて筑後川の堰き止め工事に着工し、八十数日後に堰が完成しました。大河である筑後川を塞ぎ止める工事は困難を極め、その難工事の末に完成した用水は、およそ1200haもの水田を潤しました。堰はその後の改修で当時の姿を失っていますが、草野又六と五庄屋を祭る大堰神社にある水門のハンドルにその名残があります。

また、その偉業をたたえて「五庄屋太鼓」と呼ばれる太鼓演舞が伝統として今も地元で引き継がれています(恵利堰・床島堰・佐田堰の3堰を総称して「床島堰」と呼びます)。



旧床島用水路平面図



恵利堰と五庄屋太鼓



床島堰



桜咲く大堰神社

(提供:大刀洗ランチ)

清掃活動

陣屋川・大刀洗川の清掃活動は、地域住民の多大な協力によって支えられています。

○陣屋川の鯉

毎年10月に地元の小学生が鯉を放流しています。



陣屋川を守る会の清掃活動



陣屋川の鯉

みやこ町立 上高屋小学校の 取り組み

みやこ町立上高屋小学校は、明治8年創立と長い歴史があり、学校の東西には山が連なり、周りは田んぼや畑が広がる農村地帯にあります。すぐ東側にはきれいな高屋川が流れ、自然豊かな環境に包まれています。全校児童12名と少人数ですが、「豊かな心を持ち、自分の力を最大限に発揮できる児童の育成」を教育目標に掲げ、「考える子」、「思いやりの心をもつ子」、「挑戦する子」の育成にあたっています。

「総合的な学習の時間」に3・4年生が「高屋川プロデュース-すてきな発見・すてきな発信」を実践しました。その中心は、日頃から魚や昆虫に興味を持ち、高屋川で絶滅危惧種を発見する等の自主活動をしていた、「高屋川生き物クラブ」の3名です。川端先生(当時)や県環境事務所の職員、北九州高校の魚部の皆様の指導の下、次のような取り組みをしました。

河川プール掃除後に、高屋川での川遊び(23年7月17日)

河川プール掃除後を利用して、川で遊び、高屋川に触れることで、川にどのような生き物がいるか、水の透明度はどうか、また、生活からでたゴミなどについて発見がありました。

高屋川の生き物調査(23年10月4日)

小学校の横を流れる高屋川について、学校のすぐ横と、100メートル上流の地点で、清流にどのような生物が住んでいるかを調査し、清流にしか住めない生き物を知ることができました。

高屋川の旅(野口橋→豊国橋→今川大橋)(23年11月1日)

今川との合流ポイントの野口橋から下流の豊国橋そして今川大橋を平成筑豊鉄道で移動しながら、そこに住んでいる生き物の観察やパックテストによる水質調査を行いました。

野口橋



豊国橋



今川大橋



生活科・総合的な学習の時間京築大会で授業公開(23年11月18日)

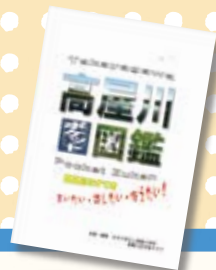
一連の成果を、高屋川プロデュース-すてきな発見・すてきな発信-として発表しました。

●高屋川プロデュースをとあしてのまとめ●

- ・川は下流に行くにしたがってよごれてくる。
- ・そのよごれの原因は人間にある。
- ・川は、家庭からのよごれた水を受け止めている。
- ・昆虫や魚、そして人々の命をつないでいる。
- ・シャンプーや洗剤の量をへらす。
- ・ごみのポイすてをしない。

調査したことを「高屋川ポケット図鑑」として発刊(24年1月1日)

本書は、高屋川に生息する水生生物を「昆虫類」・「魚類」・甲殻類」の3つのグループ計15種を図鑑的に紹介しています。その中の一部内容を紹介します。



昆虫類

●ムカシトンボ トンボ目 体長19mm



日本にはムカシトンボ1属1種のみが生息している。河川源流部の礫の下に生息し、幼虫は7年間も水の中で生活しており、様々な大きさの幼虫が同時に見られる。福岡県のレッドデータブックでは準絶滅危惧種に指定されている。
〔川の生き物観察ガイドブック〕

●サナエトンボ トンボ目 体長31mm



河川に生息する代表的なトンボの中間である。他のトンボのヤゴとは触角が幅広くなっていることで区別できる。河川中流域ではオナガササエ(流れが速い瀬の礫の下)、コオニヤンマ(川岸の植物の根際)、ダビドサナエ(流れがゆるやかな川岸の砂や泥の中)など普通に採集される。
〔川の生き物観察ガイドブック〕

魚類

●オヤニラミ スズキ目 ケツギョ科 体長70mm



鰓蓋の後端に目玉模様の斑紋があり、かの斑紋のせいで「ヨツメ」と呼ばれる。普段はあまり泳ぎ回らず、ヨシなどの植物の陰に隠れている。産卵期は5月から6月で、メスは、ヨシなどの植物の茎や流木の表面に卵を産み付ける。
準絶滅危惧種(紫川大図鑑)

●イトモロコ コイ目 コイ科 体長55mm



背中側に黒っぽい斑点があり、砂礫底の場所を泳いでいるときに上から見ると、この模様が砂粒のように見える。目は大きく、口ひげは一对である。中流域の砂礫底の場所を好み、よくカマカツと共に川底を遊泳している姿を見ることができる。
〔紫川大図鑑〕



さかなを捕まえるのが楽しかった。夢は魚博士かな♪

清田 陸矢君



図鑑を作るため魚の写真を集めるのに苦労した。

竹内 暢駿君



さかなを捕まえるのに一箇所ではできなくて、何カ所も移動しなければならなかったのが大変だった。

渡辺 大智君

みやこ町町長への高屋川ポケット図鑑贈呈(24年1月16日)

町長室へ入ってドキドキの3名でしたが、自信を持って井上幸春町長さんに高屋川ポケット図鑑を贈呈しました。

主要新聞4紙で紹介

高屋川ポケット図鑑の発刊について、西日本、朝日、毎日、読売の4紙で紹介され、地元で大きな反響を呼びました。



平成24年度 第1回災害復旧実務講習会の報告

平成24年4月27日(金) 時間: 10:30~16:50 於・(財)福岡県建設技術情報センター

平成24年度第1回福岡県災害復旧実務講習会(主催: 福岡県河川協会)が開催され、県内各市町村・県土整備事務所の担当者約135名に参加していただきました。当講習会は年2回、災害復旧事業担当者を対象に開催してお

り、昨年度の災害復旧事業の総括や災害復旧事業の基本原則、災害復旧事業の実務、設計・積算の考え方や留意点など、事務及び技術の両面から災害復旧事業について習得できるプログラムとなっています。

	時 間
開会挨拶	10:30~10:40 (10分)
平成23年災害査定の総括	10:40~10:55 (15分)
災害復旧事業の基本原則について	10:55~11:35 (40分)
災害報告・目論見書の作成について (災害復旧管理システム)	10:35~12:00 (25分)
防災エキスパート会の活動について	13:00~13:20 (20分)
災害復旧事業の実務について	13:20~14:00 (40分)

	時 間
改良復旧事業について	14:00~14:35 (35分)
河川災害復旧の留意点について	14:50~15:30 (40分)
道路災害復旧の留意点について	15:30~16:10 (40分)
東日本大震災における 派遣の報告	16:10~16:30 (20分)
質疑応答	16:30~16:45 (15分)
閉会挨拶	16:45~16:50 (5分)

講習会の冒頭では、福岡県における平成23年発生災害の災害査定件数の報告と、申請に向けたポイントとして、維持管理に係る資料整理に創意工夫が必要であることなどを説明しました。

プログラムに沿って県庁職員が講師となり、災害復旧事業初任者向けに関係法令の説明や事業の目的、採択要件、適用除外など申請するうえで押さえておくべき基本的な事項の説明のほか、災害復旧管理システムを使った目論見書作成方法、最近の国及び県から出された災害復旧に関する技術的な通達事項の解説など実践に即した内容で講習を進めました。

また、県土木技術職OBによりボランティアで組織する「福岡県防災エキスパート会」からは、河川現況調査や大規模災害時、市町村への災害申請アドバイス等の活動紹介がなされました。

講習会の最後には、東日本大震災をうけ地方自治法により宮城県へ派遣された職員から地震被害の概要や査定時に議論となった事項などを報告しました。

災害発生から成功認定までには、災害復旧に係る多くのルールや留意事項がありますが、この講習会を参考にいただき、迅速かつ適正な災害復旧実務が行われる一助となればと考えています。次回の講習会においても、たくさんの方のご参加をお待ちしております。

7月は河川♥愛護月間です

福岡県では、毎年7月1日から7月31日までを河川愛護月間と定め、各種事業を実施しています。

広報活動

①街頭広報キャンペーン

県内の、福岡・北九州・久留米・飯塚の4つの地域において、街頭でチラシ等を配ったり、地域のイベントに参加して河川愛護意識の啓発活動を行っています。

②河川愛護ポスターの掲示

河川愛護ポスターを作成し、県内のJR主要駅に掲示します。

③懸垂幕・看板の掲示

県庁や県土整備事務所で懸垂幕や看板を掲示し、住民の方に河川愛護を呼びかけます。

表彰

①河川功労者の表彰

河川の機能保全、河川愛護等に特に力を尽くし、その功績が顕著な個人並びに団体を表彰します。

②河川愛護企業の表彰

河川愛護活動が特に顕著であり、他の模範となる優良企業について表彰します。

③河川愛護絵画コンクール

河川愛護意識の高揚を図るため、小学校児童による絵画コンクールを実施し、優秀作品を表彰します。

ボクと一緒に
ふくおかの川を
*キレイ*にしよう!!

～河川を美しく、安全に利用するために～

- ①河川にゴミ・空き缶・空きビン等やし尿等を捨てたり、流したりしないこと。
- ②河川の堤防や敷地内の芝生や砂利を無断で取ったり、植樹をしたり、耕作をしたり、建物等の工作物を作ったりしないこと。
- ③河川敷内で野焼きをしないこと。
- ④河川に無断で橋をかけたり、土管を埋設したり、また水路にふたをしたり、埋め立てることなどをしないこと。
- ⑤河川・溜池・水路・井堰周辺などは、水の利用や排水に備えて、水のたまりや流れに支障のないようにすること。
- ⑥石けんや無リン洗剤の適正使用に心がけること。

河川愛護事業
イメージキャラクター
よみガエルくん

第8回

ふくおか水もり自慢! 筑豊大会

平成24年3月10日～11日に、近畿大学産業理工学部福岡キャンパスにおいて、「ふくおか水もり自慢! 筑豊大会」が開催されました。

今年で8回目を迎えた「ふくおか水もり自慢!」は福岡県内の「水」・「もり(森)」(山林、川、ため池、水田、水路、海、干潟など)に関わる活動をしている団体(学校、市民団体、NPO、国、地方自治体、企業)が一堂に会し、異分野交流や行政と市民とのパートナーシップを促進するとともに、他の団体の活動内容を学び、今後の活動の糧とするためのイベントです。今回は第1回からの全8回の総括を行いました。

ステージ発表

各団体は、ステージの上でそれぞれの活動を披露します。持ち時間は3分間で、発表の方法は自由です。今年は30団体が参加してくれました。



ポスター発表

グループ毎に分かれて1グループあたり15分間ポスターを使って屋台方式で発表しました。参加者と発表者が直接意見交換しました。



全体討論会

「これまでの水もり、これからの水もり」をテーマに、会場全体で議論しました。



エクスカーショ

「中島自然再生事業」の見学を行いました。

参加団体(敬称略、順不同)

めだかの学校 すずめ教室、筑後川まるごと博物館運営委員会、キッズLNC(キッズLittle Nature Club)、豊の国海幸山幸ネット、YNHC(青少年博物学会)、九大エネルギーサークル EneQ、SWEEP(河川環境ボランティア)、めだかの学校遠賀川生き物調査隊、筑後川まるごと博物館運営委員会、NPOアザメの瀬、近畿大学、はかたわん海援隊、NGO河川・環境ボランティア、上西郷川日本一の郷川をめざす会、福岡打ち水大作戦実行委員会、龍王・山・里・川の会、古賀河川図書館、堀川再生の会・五平太、直方川づくり交流会、北九州インタープリテーション研究会、福岡県直方県土整備事務所、紫川を愛する会、おやじの会、NPO法人 南畑ダム貯水する会、遠賀川河川事務所、C・M・C筑後ミュージカルカンパニー、福岡県飯塚県土整備事務所、古賀ふるさと見分け実行委員会、澤田 憲孝、福岡県河川課

お知らせ

「ふくおか水もり自慢!」の今後については、決まり次第HP等でお知らせします。



キッズ質問コーナー



川に関する質問や疑問、知りたいこと等について募集します。川に関することなら、どんなことでも何件でもOKです。皆さんからの応募をお待ちしています。

Q1 日本に川は何本ありますか。

A 国が管理している一級河川、都道府県が管理している二級河川、市町村が管理している準用河川を合わせると全部で35,608本あります。

Q2 久留米で一番大きな川と福岡で一番大きな川の名前は何ですか。日本で一番大きな川と小さな川の名前は何ですか。

A 久留米で一番大きな川は筑後川^{ちくごがわ}で、143kmあります。福岡で一番大きな川も筑後川です。日本で一番大きな川は、長野県と新潟県を流れる信濃川^{しなのがわ}で、367kmあります。一番小さな川は、和歌山県にあるぶつぶつ川で、13.5mしかありません。

Q3 今川はいくつの川が合流していますか。今川に、うなぎはいますか。また、プランクトンは何種類いますか。

A 今川^{たかやがわ}、高屋川^{まつざかがわ}、松坂川^{きたらがわ}、喜多良川^{おおさか}、大阪川^{がわ}、十津川^{とつかわ}の6本の川が合流しています。今川には、ウナギが住んでいます。天然で育ったウナギの外に地元の漁業協同組合などがウナギを増やすために、子どものウナギを毎年放流しています。プランクトンはいますが、何種類かは分かりません。

Q4 福岡県のレッドデータブックにのっている川の魚は何種類くらいですか。福岡県には、アガサやサクラマスはいますか。

A レッドブックにのっている淡水に住む魚は、41種です。アガサや、サクラマスも県内に生息しています。

Q5 川魚は、何種類いるんですか。

A 川魚は、日本には約400種住んでいます。世界では、1万2,000種住んでいると言われています。

Q6 世界で一番長い川は何川ですか。

A ナイル川で、長さは6,650kmです。

(出典:河川管理統計、レッドデータブック、水生昆虫図鑑、福岡県内水面漁業協同組合連合会、インターネット情報外)

応募先

福岡県河川協会

〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7

福岡県県土整備部河川課内

TEL 092-633-2826 FAX 092-643-3669

ホームページ <http://www.fukuoka-pref-kasen.jp/kasenkyokai/>



ふくおかの身近な川と さかなを知ろう



No.19 ヤマメの理由

15 年ほど前、福岡県内の主要な1級、2級河川で魚類相を調べていたとき、ほとんどの河川の上流域でヤマメを採集できたのですが、ここ数年、その姿を見かける頻度が劇的に減っているような気がします。当時は種苗放流が盛んで、恐らく、ヤマメの幼魚が多くの河川に放流されていたため、最近、ヤマメの姿を見ないのは放流が減ったからかも？ヤマメはそもそも冷水性の魚であり、九州では熊本・宮崎県境など、極めて標高が高い場所で高密度に生息しているものであって、福岡県内の低い山から流れる河川ではその生息密度が低く、元々あまり見かけないのが普通なのかもしれません。それにしても、ヤマメは美しい！先日、佐賀県嘉瀬川水系で潜水観察中にヤマメを目撃しましたが、久しぶりに幼魚のパーマーク（横斑）を見ることができて、とても感動しました。今回、目撃したヤマメも放流ものかもしれませんが、、、

ヤ マメはサケ科の魚。そして、九州には、アマゴという同じサケ科に属する近縁種が分布していますが、この魚は九州では北東部にのみ生息します。それ以外の地域が九州のヤマメ域です。そして、福岡県遠賀川、佐賀県玉島川で毎年放流されているサケを含めた3種が、九州に元々分布するとされているサケ科魚類です。九州に住んでいる我々が山間の観光地でしばしば目にするイワナとニジマスは、それぞれ本州地方、北米原産の国内・国外外来魚であっ

て、九州の河川に元々生息する魚ではありません。北海道では、外来魚ニジマスが自然水域に定着してしまい、北海道に元々棲んでいる在来種のサケ科魚類の生息地を奪っているとの報告もあり、美しいサケ科の魚たちにも外来魚問題があることを追記しておきます。

さ て、ヤマメですが、九州では河川の上流域に生息し、一生をそこで過ごすわけですが、北日本のヤマメは海と川を行き来する魚であることをご存知ですか？あちらでは、サクラマスと呼ばれており、川で産卵し、しばらく川で成長した後、海に降り、そこで成長した後、母川回帰するサイクルを営みます。みなさんがよくご存知のサケと類似した遡河回遊型の生活史サイクルです。ですから、九州のヤマメは、正確にはサクラマス河川残留タイプ。同じ種類であるにもかかわらず、北では海に降り、南では河川に残留するのはなぜなのか、気になりませんか？

実 は、日本国内の淡水魚類の分布域は、日本列島の形成史と密接に関係しています。日本列島のある時代の図を示します。氷期で海水面が低下していた時代、日本列島は大陸と陸続きで、日本海には暖流が流れ込んでいませんでした。氷期で、暖流も流れていないわけで、日本海がかなり低温であったことが予想されます。サケ科魚類は冷水性ですので、その頃、それらの全盛期があったと推察されます。そし

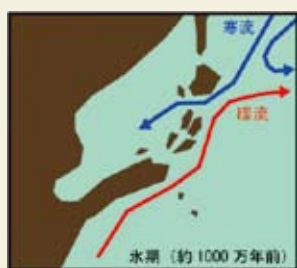


おにくらのりお
鬼倉 徳雄

●九州大学大学院農学研究院・助教
●日本水環境学会九州支部・評議委員
●日本魚類会自然保護委員会・
希少魚類部会委員

主な著書／

■有明海の生きものたち 干潟・河口域の生物多様性(佐藤正典編)
■干潟の海に生きる魚たち 有明海の豊かさと危機
(日本魚類学会自然保護委員会編)



氷期



間氷期

て、海も川もサケ科魚類にとって適温であり、その時代、九州に生息したサケ科魚類は海と川を行き来していたことでしょう。しかしながら、氷期が終わると状況が一変します。海水面が上昇し、日本列島と大陸間に海峡ができ、その間を暖流が流れるようになります。今でいう対馬暖流ですね。日本海の水温が上昇し、サケ科魚類にとって過酷な海水温となり、彼らは海に降りると生きていけなくなったことでしょう。そのため、水温が低い河川の上流域に残留し、そこで生活史サイクルを営むようになったと考えられています。これがヤマメ(サクラマス残留型)の理由です。北日本では、対馬暖流の影響は及ぶものの、九州に比べればその影響の程度は低く、今まで通り、海と川を行き来する生活史サイクルを続けているため、北と南でサクラマス(回遊型)とヤマメ(残留型)が存在しているということですね。このように、氷期と間氷期を何度も繰り返した地球の歴史の中で、サケ科魚類は生活史を多様化させながら現在に至っているのです。そして、今、我々が生きている時

代は間氷期ですので、地球の歴史上は暖かい時代です。冷水性のサケ科魚類にとっては過酷な時代と言えるでしょう。

今 冷水性のサケ科魚類の話を示したが、南方系の魚にとって、氷期－間氷期はどのように影響しているのでしょうか？現在は間氷期です。日本列島に接岸する最も大きな暖流は太平洋側を流れる黒潮で、南方海域からたくさんの海産魚を運んでくることが知られています。そして、黒潮分枝流である対馬暖流もその役割の一端を担っています。それでは、氷期の南方系種は???先ほどの図から考えれば、日本海に暖流は注いでおらず、そこに南方系種は到達していなかった可能性が高いですね。残念ながら、その時代の彼らの生活史については分かりませんが、少なくとも現在よりも分布域ははるかに狭かったことでしょう。そして、もしかしたら、サケ科魚類のように過酷な時代を生き抜くため術を持っていたかもしれません。

様 々な生物が地球の歴史の中での環境の変化に対して、種を残すために、様々な術を使いながら、今、現在に至っているのです。そして、今、我々人間が地球の歴史のような長いスパンで起こる環境の変化ではなく、極めて短期的な人為的環境改変を起こし、多くの種を絶滅の危機にさらしてしまっていることをもう少し直視する必要があるのではないのでしょうか？

水辺の鳥図鑑

コ チ ドリ 小千鳥

鳥綱チドリ目チドリ科

(学名:Charadrius dubius)

鳥綱チドリ目チドリ科の鳥。

■ 撮影者:犬鳴川流域文化研究会:中村氏

■ 撮影地:犬鳴川流域



全長16センチメートル。上面は褐色で下面は白色。顔は白地に、黒い過眼線と頭上を通して目と目を結ぶ黒線があり、目の周囲は細く黄色。嘴は黒色で短め。胸に黒帯がある。日本では夏鳥で、離島を除いてほぼ全国で繁殖している。湖沼畔や中流以下の川

原、地肌の出た荒れ地などで繁殖する。地面のへこみに小石、貝殻片などを敷いて4卵を産み、25日前後抱卵する。水田や湿地、川の泥地で採餌し、ミミズ類や昆虫類などを食べる。

繁殖期以外は群れていることが多い。

表紙の説明

山国川

福岡県と大分県の県境を夏の強い日差しを受けながら悠々と流れる山国川。



編集 後記

平成24年度も新しい編集スタッフを迎えましたので紹介します。県土整備部河川課廣渡防災事務係長、防災係久保田主任技師、管理係升永主事、企画調査係本城主任技師、治水係小田主任技師及び本協会大田の6名です。楽しい誌面作りに取り組めますのでどうぞよろしくお願いします。(猿渡)

協会からのお知らせ

平成24年度通常総会

◎日時:7月27日(金)

◎場所:ホテルレガロ福岡

主催:福岡県河川協会



◆ STAFF

発行・編集 福岡県河川協会(福岡県県土整備部河川課内)
〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7
TEL:092-633-2826(直通)
FAX:092-643-3669

企画 セントラル印刷株式会社